



# スマイル天神 No.44



令和4年2月28日  
天神小学校  
校長 木下 和弥

思いやりのある子・進んで学ぶ子・明るくたくましい子

## 情報のクラウド化と記憶・知識のクラウド化

皆さんは、ググった経験はありますか？何か不思議に思ったことや、興味を持ったこと、調べたいと思ったことは、パソコンやスマートフォンで検索すれば、あっという間に情報を手に入れることができる便利な時代になりました。



つい、10年前・20年前までは、国語辞典で調べる・百科辞典で調べる・図書館に行つて調べる・詳しい人に聞く…。そのような手立て・苦労が必要でした。

以前は時間も労力も必要だった作業が、その場ですぐにわかることで時間と労力があまり、他のことに時間が使えるようになったという利点があります。

以前は、情報は自分の身近なところではなく、特定のところにあり、今は、情報はそのことに加えて、クラウドというインターネット上にあります。あまりにも大量な情報のため、そこから本当に自分が必要な情報を取り出す力や、その情報が正しいのか、正しくないのか判断する力が社会の中で求められています。

世の中で、世間一般に求められる力は、当然教育の中でも育てていくことが重要になっています。全国学力・学習状況調査や県立中学校の適性検査、県立高等学校の入試問題。世界標準のPISA（ピサ）調査問題でも、同様の力が求められています。①大量の情報から必要な情報を見つけ出す。②その情報が正しいか正しくないかを判断する。この二つの力は今度も非常に重要な能力であると考えます。情報は、大半は「文字情報」ですが、「図・表・写真・動画」なども大切な要素です。

さて、ここまで「情報のクラウド化」について述べてきましたが、私は、「記憶・知識のクラウド化」は課題があるように思っています。つまり、覚えておかなければならないこと、習得しておくべき知識や技能も、クラウド化しておくことです。「あ、そのことはクラウドに保存しておくから、覚えておかなくていい。」ということです。学校からの連絡も、紙媒体ではなくて、メールで送信されていればスマホに保存されていて、覚えておかなくてもいい。スケジュール管理をしなくていい。メールを見るようにすればいい。確かにそのとおりであり、一見便利ではあるのですが、私が高齢だからなのでしょうが、私たちの能力の何か大切なものが著しく衰えていくような気がしてならないのです。「便利さ」や「楽」を否定するわけではありませんが、そのことと引き換えに失うものが大きいような気がしてなりません。入試・入社試験などのテストの最中にスマホやパソコンを取り出して情報を取り出すことはできないからです。情報がクラウド化されても、記憶や知識は自分の肉体の中に、脳の中に刻み込んでおかなければならないことも大切です。

天神小学校で子どもたち・先生たち・保護者や地域の方と話をする中で、私の思いや考えを伝えるとき、心の中に刻み込んでいる部分を伝えるようにしたいと考えています。「校長先生、また同じ話を始めた…」とか「前も同じ話を聞きましたよ。」と思われることがあるとすれば、聞かれている方にとっては迷惑でしょうが、私にとっては大成功です。クラウド化していない、何度も何度も考え、考え抜いて、悩み苦しんで得たものが、最後は自分を形作り、自分を支える、本当に大切なものになるのではないかと考えています。

天神小一徳運動 「気持ちのいいあいさつ」 ～あじさいあいさつを～

～**あ**いての目を見て **い**ぶんから **さ**わやかな声で **い**つでも・どこでも・誰にでも